

もろこし
聖徒伝 229

真実の癒しを もたらす赦し

エレミヤ書 8章

万軍の主の裁き

アウトライン

0. イントロダクション

I. 背教の末に 7:1~15

II. 滅びの時 7:16~34

III. まとめと適用

「呪われたいちじく(マルコ11章)」
に学ぶ赦し

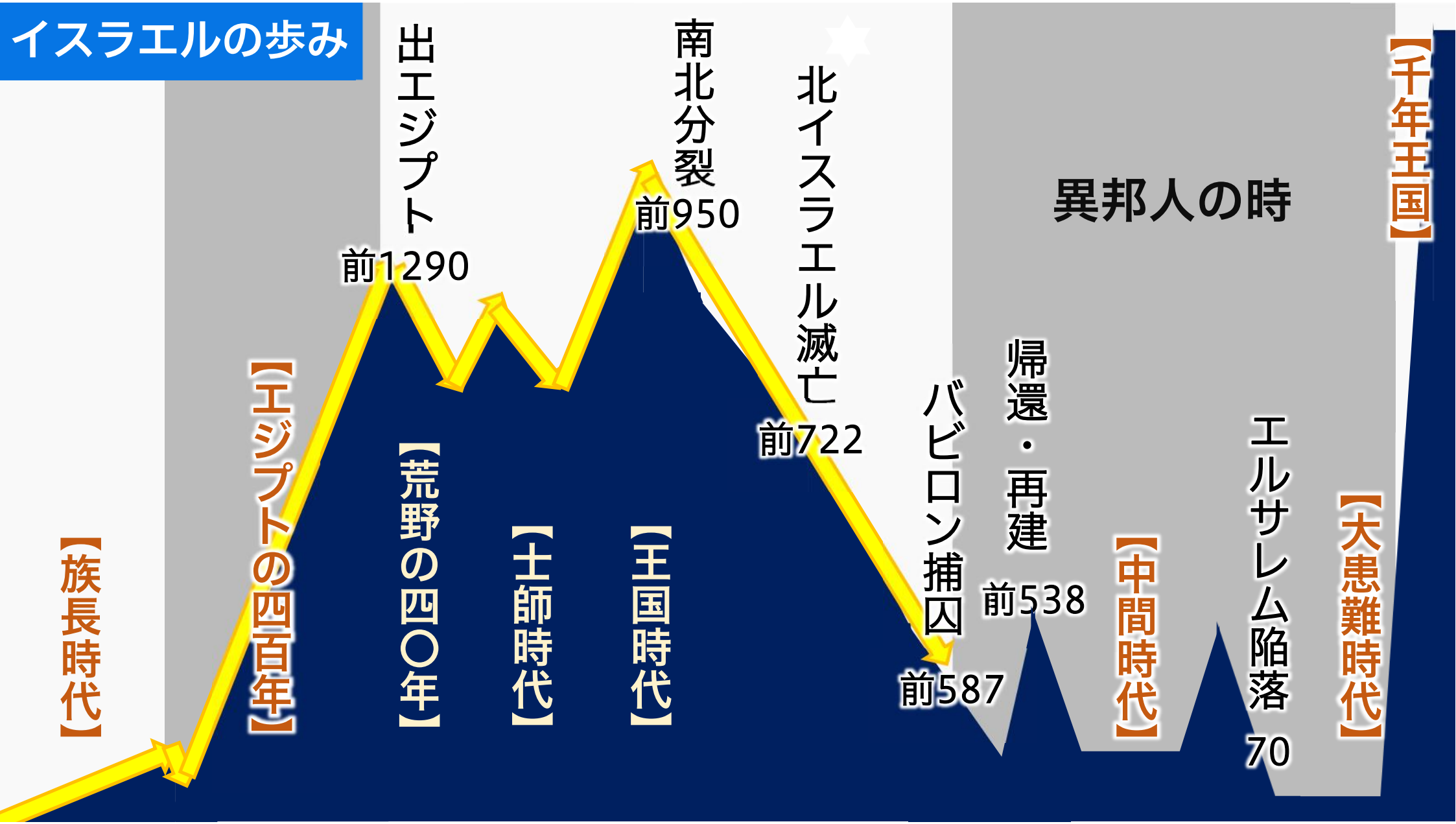


ダンの神殿跡

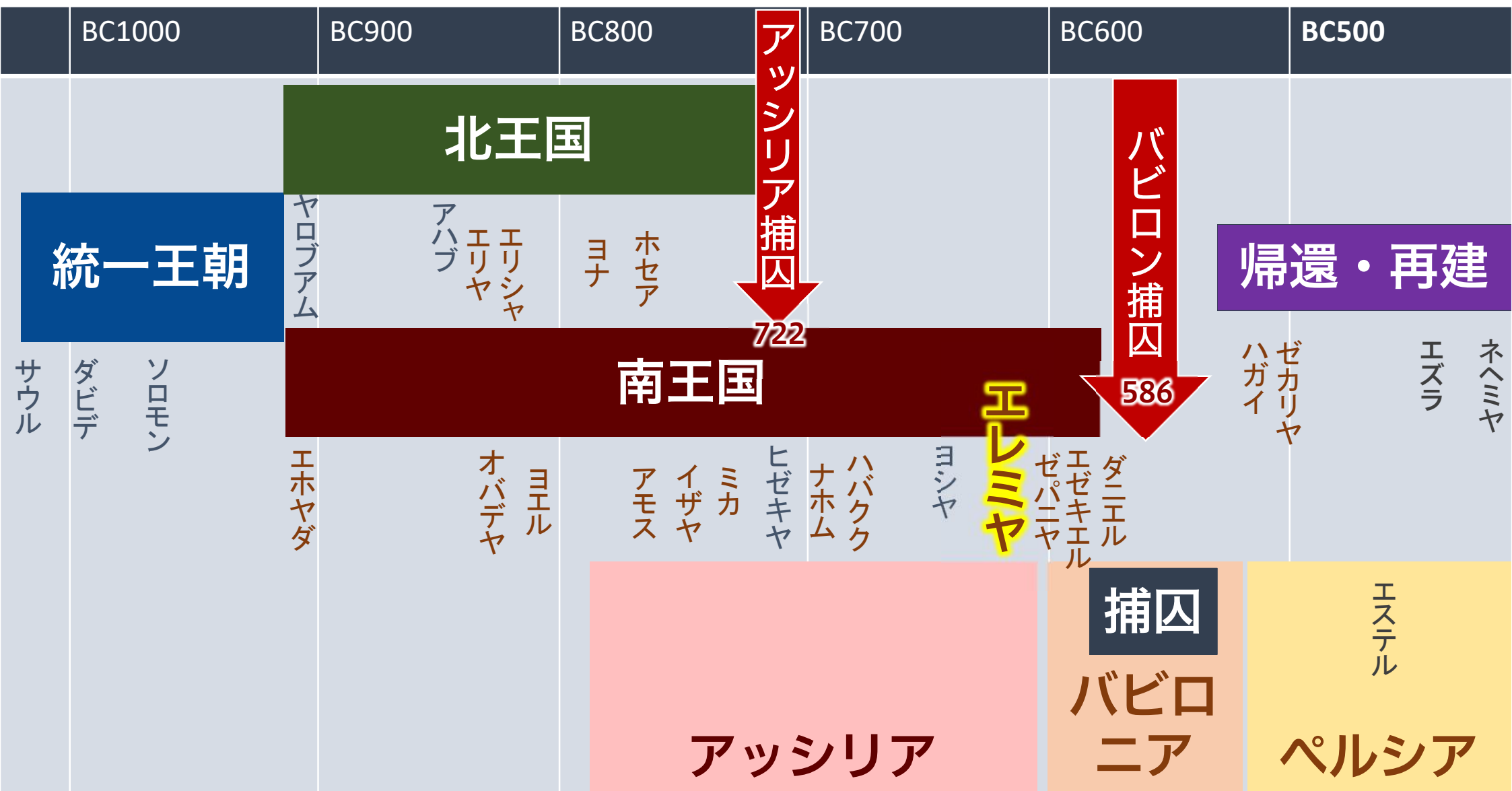


0. イントロダクション

イスラエルの歩み



イスラエル王国史



北王国
イスラエル

アッシリア捕囚
↓

BC722年

避けがたい神の裁きを伝えることが、
エレミヤの使命

バビロン捕囚
↓

南王国
ユダ

預言者の空白時代



エレミヤ書の構成

章	時代	おもな内容
1～12	ヨシヤ王の時代	エレミヤの召命 エルサレムの罪状と裁定
13～20	エホヤキム王の時代	捕囚の預言
21～38	混沌の時代① エホヤキム、エホヤ キン、ゼデキヤ (※記述年代は前後)	帰還の希望(23~29章) エルサレムの滅亡 慰め
39～44	捕囚後	
45～51	混沌の時代② エホヤキム、エホヤ キン、ゼデキヤ (※記述年代は前後)	エルサレムの滅亡 諸国への預言
52	まとめ	エレミヤの生涯

エレミヤによる「裁きの預言」が示すこと

- 第一に、差し迫った**バビロン捕囚(BC586)**
- すでに起こったバビロン捕囚の出来事以上の惨劇も!!
 - ➔ 後の時代の裁き・**ローマによる陥落(AD70)**
 - ➔ 世の終わりの裁き・**大艱難時代**

時空を超越した神の計画・主の目には一つのこと

イスラエルへの裁き



南北時代



千年王国

主の目

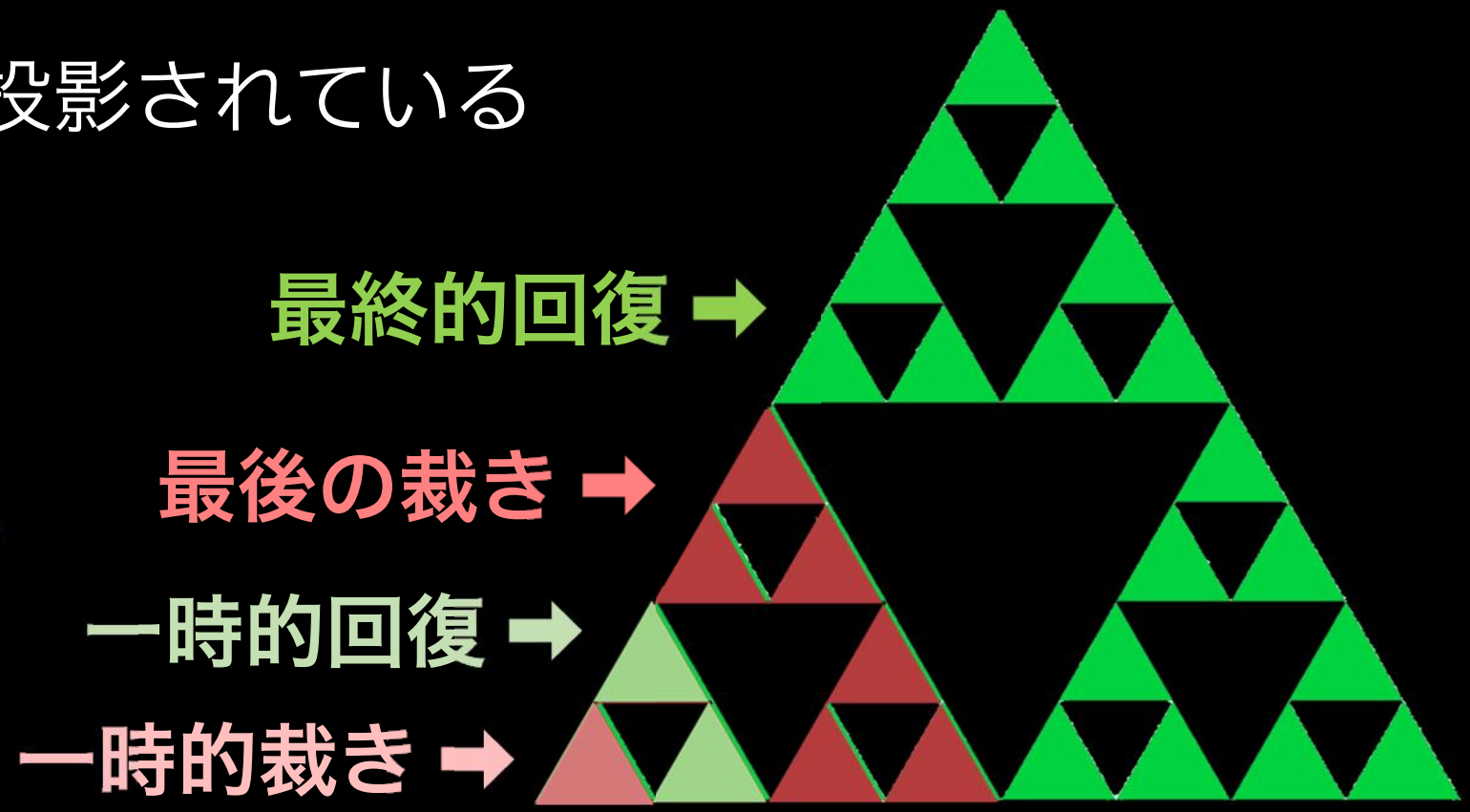
バビロン
捕囚
BC586

ローマに
よる
陥落
AD586

大
艱
難

預言は、フラクタル(相似形)で、シームレス(ひとつなぎ)

部分に全体が、
全体に部分が投影されている



私たちは、メシア以降の時代に生かされている。

だからこそ、

イスラエルが拒絶したエレミヤの預言をも、
恵みとして味わい知ることができる。

この恩恵を享受しつつ、学んでいこう。



I. 背教の末に エレミヤ8:1～12

最北のダンに残る「高きところ」

第一連 背教者の末路 エレミヤ8:1

「そのとき*—【主】のことは一人々は、ユダの王たちの骨、首長たちの骨、祭司たちの骨、預言者たちの骨、エルサレムの住民の骨を、墓から取り出し*、それらを、彼らが愛し、仕え、従い、伺いを立て、拝んだ日や月や天の万象の前にさらす。それらは集められることなく、葬られることもなく、地の面の肥やし*となる。

*バビロン捕囚の時

*墓の中の骨は汚れの極み(民19:16)

*肥やし…最悪の陵辱(イゼベルの死Ⅱ列9:37)

■ 罪に汚れ果てた者が、最悪の陵辱をされる。



第一連 絶望の民 エレミヤ8:3

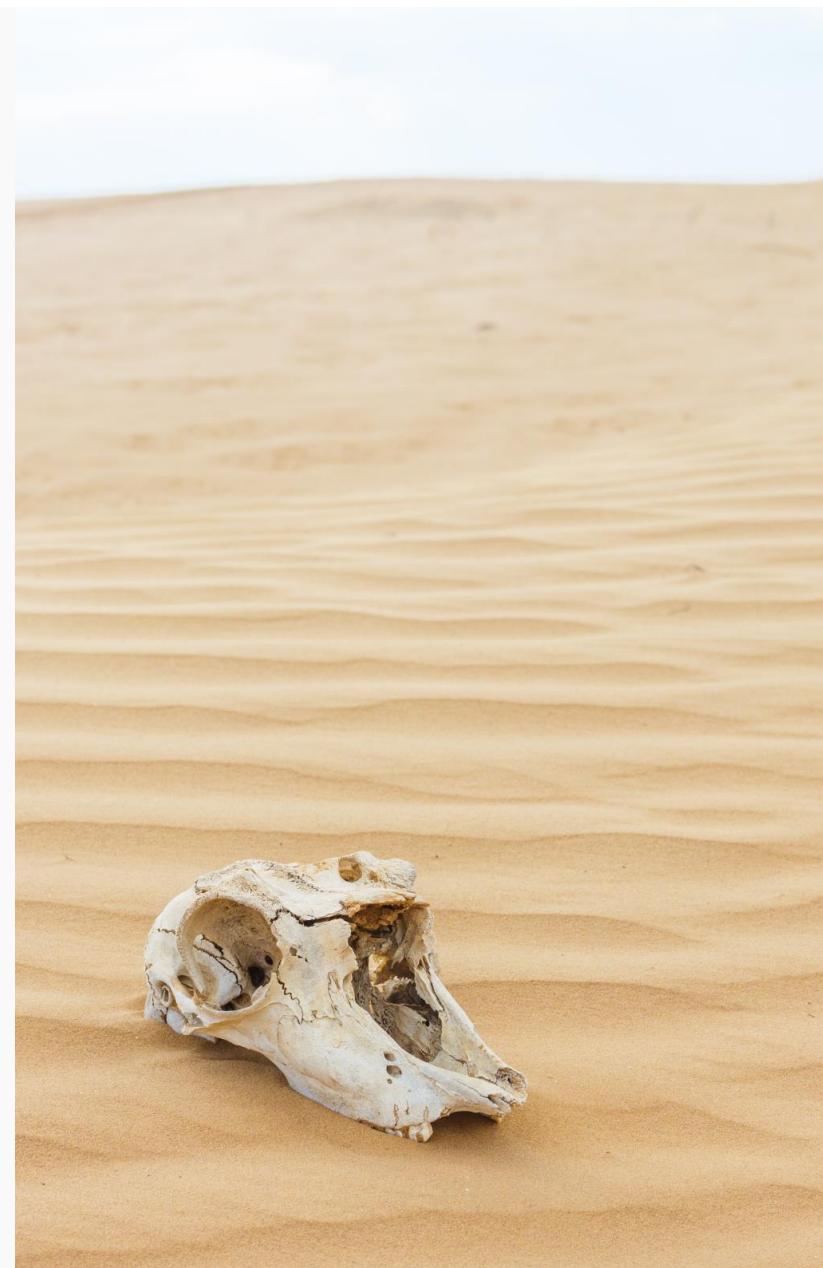
また、この悪しき一族*の中から残された
残りの者*はみな、わたしが追いやったすべ
ての場所で、いのちよりも死を選ぶ*ように
なる——万軍の【主】*のことば。

*罪の極みに至ったイスラエル

*生き残った者は、捕らわれて異邦の地へ

*神の裁き主の側面が強調

エレミヤで最多 …約80/280回



第二連 帰還を拒絶 エレミヤ8:4~5

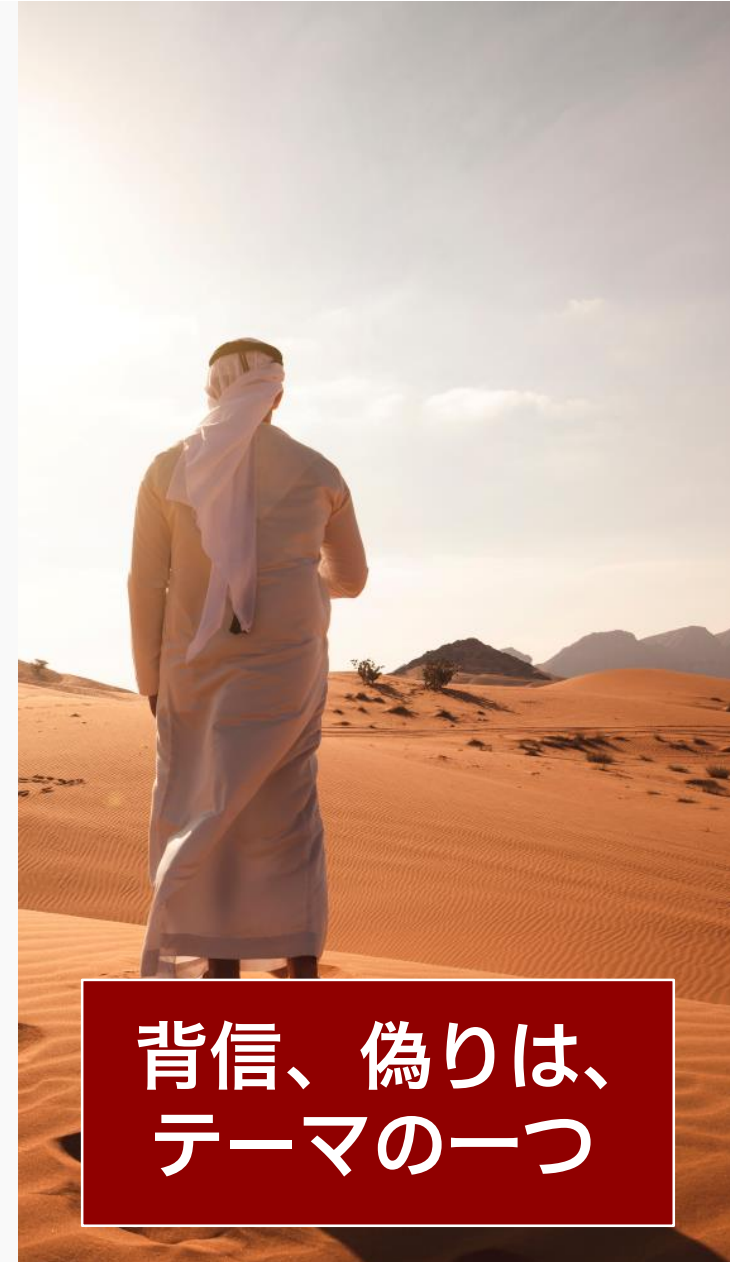
あなたは、彼らに言え。『【主】はこう言われる。人は倒れたら、起き上がるものではないか。離れたら、帰って来るものではないか。

なぜ、この民エルサレムは、**背信者***となり、いつまでも背信を続けているのか。彼らは**偽り***を握りしめ、帰って来ることを拒む。

*メシュバ …10/18回は、エレミヤ書

*トルマー …3/5回は、エレミヤ書

■倒れたまま、背いたまま…、
その末路は、万軍の主の厳しい裁き。



背信、偽りは、
テーマの一つ

第二連 滅びへの突進 エレミヤ8:6

わたしは気をつけて聞いたが、彼らは正しくないことを語り、「私は何ということをしたのか」と言って自分の悪を悔いる者は、一人もいない。彼らはみな、**戦いに突き進む馬のように**、自分の走路に走り去る。

■ 背教のイスラエルが挑んでいるのは、
守り導いてくださっている、主ご自身。

➔ 神に戦いを挑むのが、まさに罪人



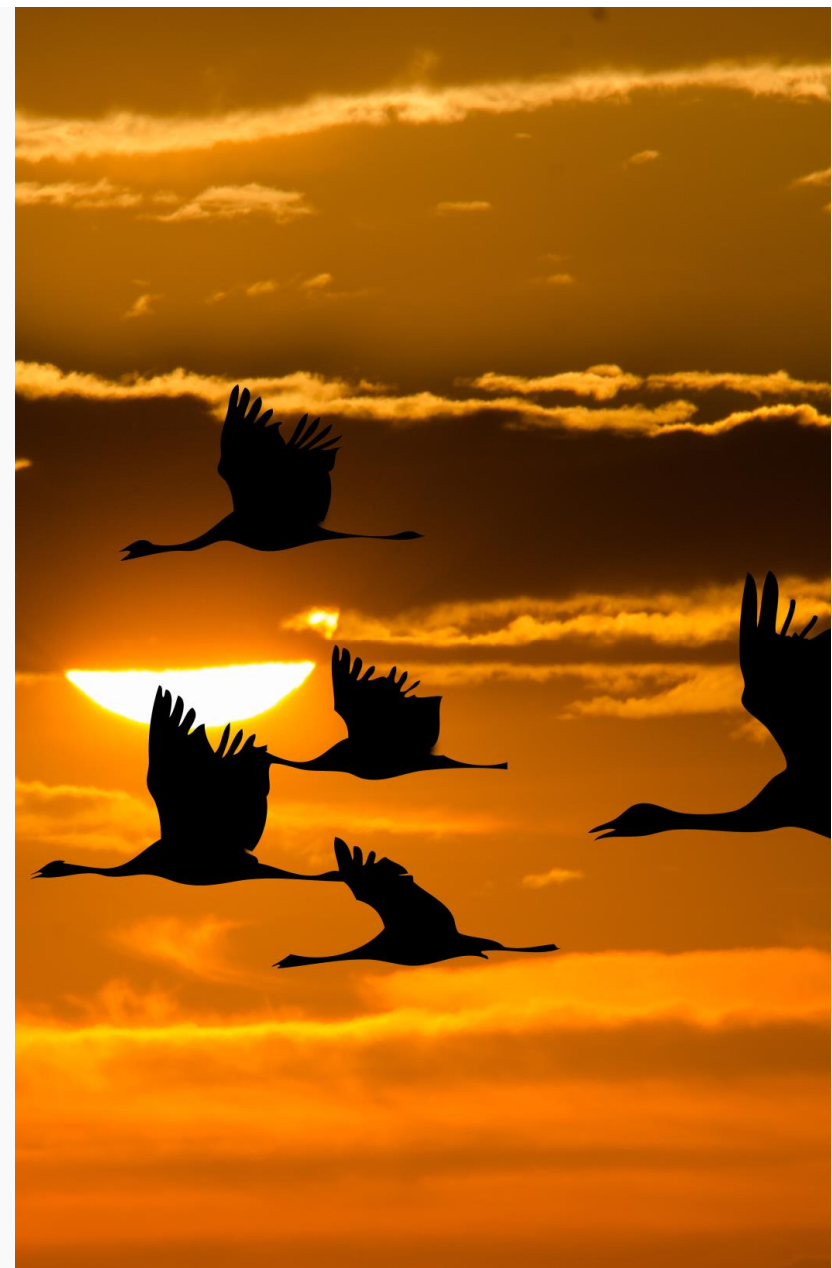
第二連 帰路を忘れた民 エレミヤ8:7

空のこうのとりの*も、自分の季節を知っている。山鳩も燕も鶴も、自分の帰る時を守る。しかし、わが民は【主】の定めを知らない。

*アジア、欧州、アフリカの広範囲に生息

➡イスラエルは渡り鳥の一大中継地

■イスラエルの状況は、帰る家を忘れてしまった放蕩息子。



第三連 知恵の喪失 エレミヤ8:8~9

どうして、あなたがたは、「私たちは知恵ある者、私たちには【主】の律法がある」と言えるのか。だが、見よ、書記たちの偽りの筆が、それを偽りにしてしまった。

知恵ある者たちは恥を見、うろたえて、捕らえられる。見よ。【主】のことばを退けたからには、彼らに何の知恵があろうか。

- ヨシヤ王制下でも、悔い改めは見せかけ。律法の否定は、神の民の存在意義の破壊。



第四連 偽善の民 エレミヤ8:10~11

それゆえ、わたしは彼らの妻を他人に、彼らの畑を侵略者に与える*。なぜなら、身分の低い者から高い者まで、みな利得を貪り、預言者から祭司に至るまで*、みな偽りを行っているからだ。

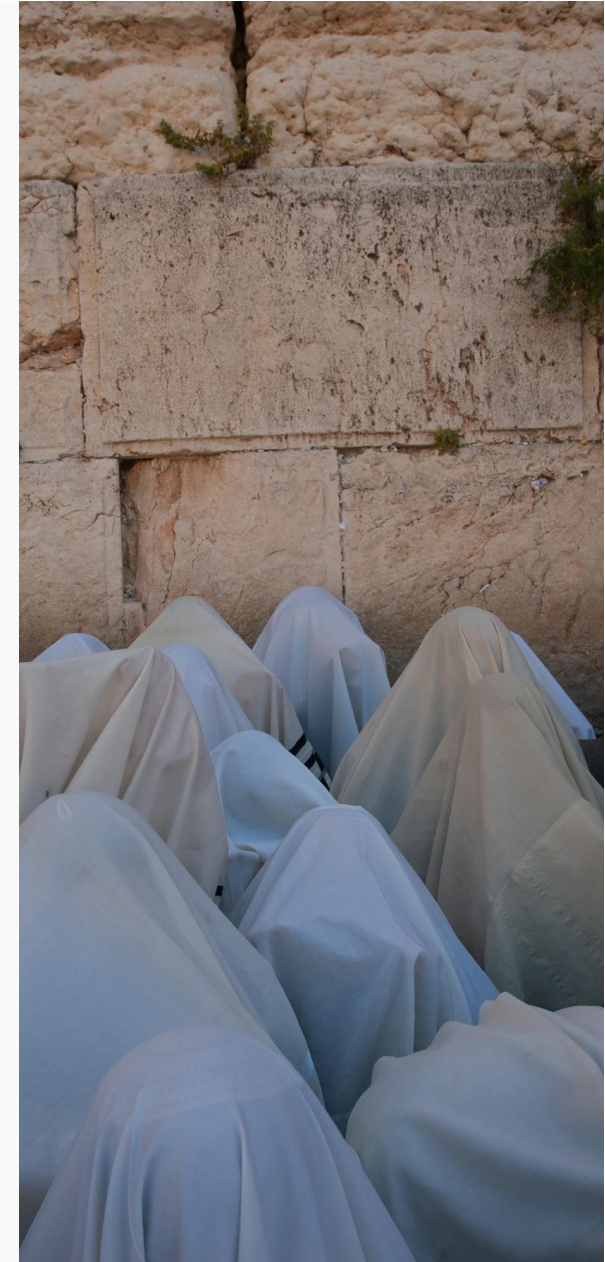
彼らは、わたしの民の傷を簡単に手当てし、平安*がないのに、「平安だ、平安だ*」と言っている。

*妻、嗣業の地、主の恵みの最たるもの

*率先して真理に立つべき者が偽りに…

*シャローム、シャローム …エレミヤ6:14でも

…お手軽な癒し、根拠なき平安 →偽預言者



第四連 恥なき民は倒れる エレミヤ8:12

彼らは忌み嫌うべきことをして、恥を見た*
か。全く恥じもせず、辱めが何であるかも知
らない。だから彼らは、倒れる*者の中に倒れ、
自分の刑罰の時に、よろめき倒れる。——
【主】は言われる。

*ブーシュ…“躊躇する、遅れる” 35/128回

「恥」 → 神の要求に達していない状態

罪なき世界に恥はなかった(創2:25)

*“(罪のゆえ、神の前に)ひれ伏す、倒れる”

45/447回。エゼキエル書の次に多い。





II. 滅びの時

エレミヤ8:13~21

渡り鳥の中継地・イスラエル北部

第五連 滅びを迎えて エレミヤ8:13

わたしは彼らを刈り入れたい*。 — 【主】のことば—しかし、ぶどうの木*には、ぶどうがなく、いちじくの木*には、いちじくがなく、葉はしおれている。わたしはそれらをそのままにしておく*。』』

*刈り入れ、収穫は、救いを示す。

*イスラエルを象徴

*滅びにまかせるということ。

■ 8:13～9:23は、ティシャベ・アブ(8月頃)

神殿崩壊を覚える日の朗読箇所の一つ



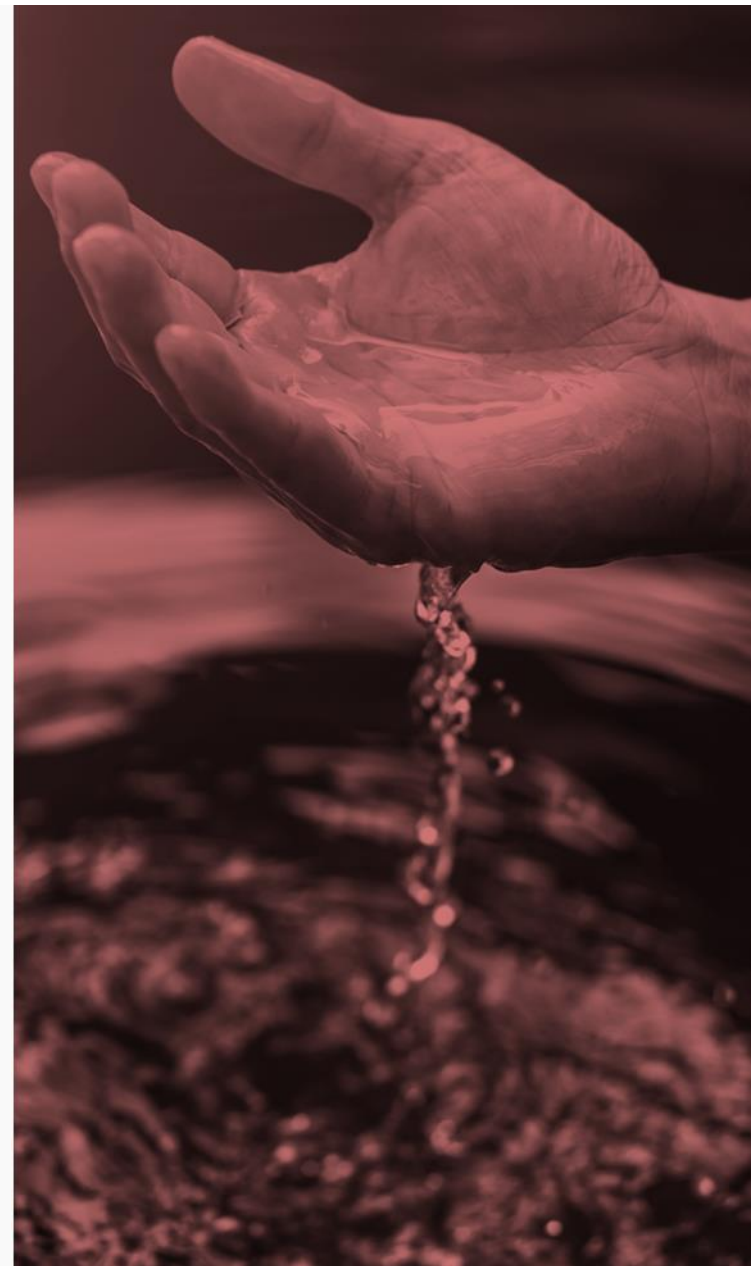
第六連 主による滅び エレミヤ8:14~15

「何のために私たちは座っているのか。集まって、城壁のある町々に行き、そこで滅んでしまおう。私たちの神、【主】が、私たちを滅びに定め*、主が私たちに毒の水を飲ませられる。私たちが【主】に罪を犯したからだ。

平安を待ち望んでも、幸いはなく、癒やしの時を待ち望んでも、見よ、恐怖しかない」

*ダマン…“黙る、静止する、死ぬ、滅びる”

…8/30回が、エレミヤ書



第七連 侵略 エレミヤ8:16～17

「ダン*から馬の鼻息が聞こえる。その荒馬のいななきの聲に、全地は震える。彼らは来て、地と、それに満ちているものを、町とその住民を食らう。

見よ。わたしがまじないの効かないコブラや、まむしをあなたがたの中に送り、あなたがたをかませるからだ。—【主】のことば」

*最北の地。北王国では金の子牛が設置。
常に真っ先に攻め込まれる地だった。



ダンの神殿跡

第八連 民の叫び エレミヤ8:18~19

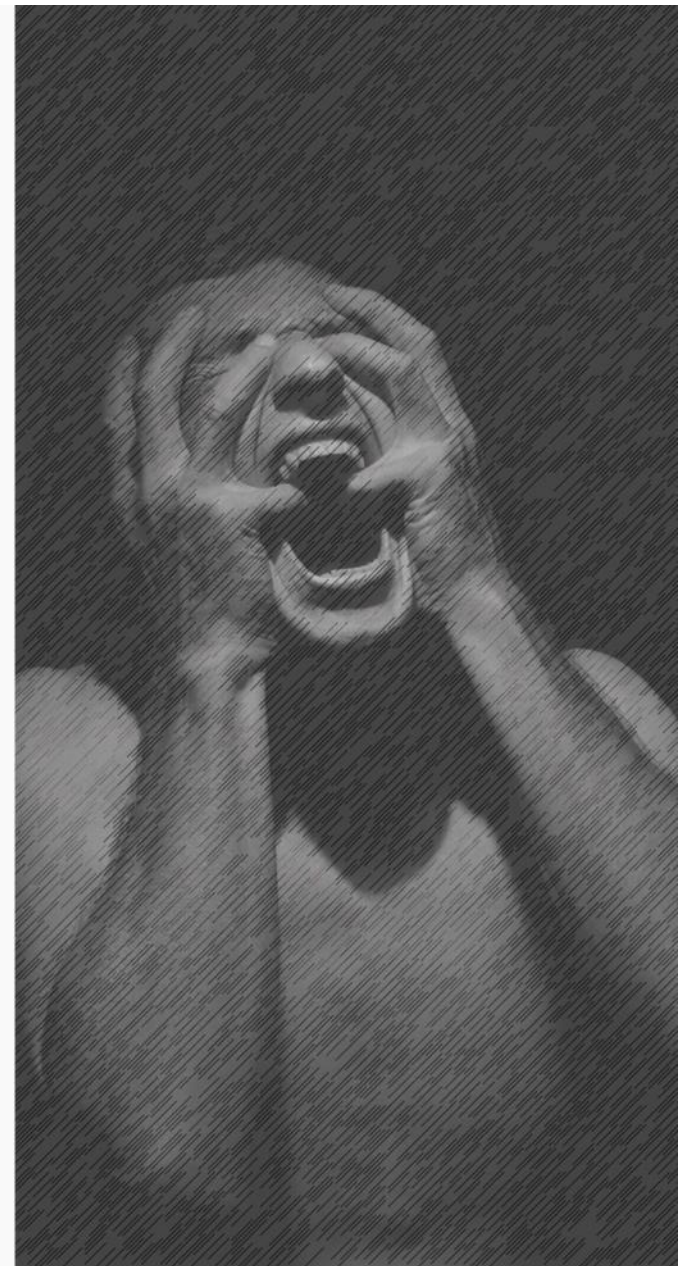
私*の悲しみは癒やされず、私の心は弱り果てている。見よ。遠い地から*娘である私の民の叫び声がある。「【主】はシオンにおられないのか。シオンの王は、そこにおられないのか」

「なぜ、彼らは自分たちが刻んだ像、異国の空しいものによって、わたし*の怒りを引き起こしたのか」

*悲しみ嘆くエレミヤ

*捕囚の地からの叫び

*神の怒り



現実のものとなる主の裁き

■無視された主の警告 エレミヤ7:3~4

イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。
あなたがたの生き方と行いを改めよ。そうすれば、
わたしはあなたがたをこの場所に住まわせる。

あなたがたは、「これは【主】の宮、【主】の宮、
【主】の宮だ」という偽りのことばに信頼しては
ならない。

民が信頼したのは、「平安だ」という、偽りのことば

第八連 癒えない傷 エレミヤ8:20~22

「刈り入れ時は過ぎ、夏も終わった* しかし、私たちは救われない。」

娘である私の民の傷のために、私は傷ついた。うなだれる中、恐怖が私をとらえる。

乳香はギルアデにないのか。医者はどこにいないのか*。なぜ、娘である私の民の傷は癒えなかったのか。

* 乾期の酷暑の後には本来、恵みの雨期が

* 痛みを和らげるものも、癒やすものない。





Ⅲ. まとめと適用 「呪われたいちじく (マルコ11章)」に学ぶ赦し

ダンの神殿跡

エレミヤ書で多用されている言葉の数々

- ・ 万軍の主 …約80/280回
- ・ 背信者 …10/18回
- ・ 偽り …3/5回
- ・ 恥じる …45/447回
- ・ 滅びる …8/30回

イスラエルの状況を示す、エレミヤに託された預言の厳しさ

比喩に見る イスラエルの極まる罪

■ 2:21 わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。

■ 6:9 万軍の【主】はこう言われる。「ぶどうの残りを摘むように、イスラエルの残りの者をすっきり摘み取れ。ぶどうを収穫する者のように、あなたの手をもう一度、その枝に伸ばせ。」

■ 8:13 わたしは彼らを刈り入れたい。—【主】のことは—しかし、ぶどうの木には、ぶどうがなく、**いちじくの木**には、いちじくがなく、葉はしおれている。わたしはそれらをそのままにしておく。』」

主イエスも、「いちじく」に言及!!

呪われたいちじく

マルコ11章

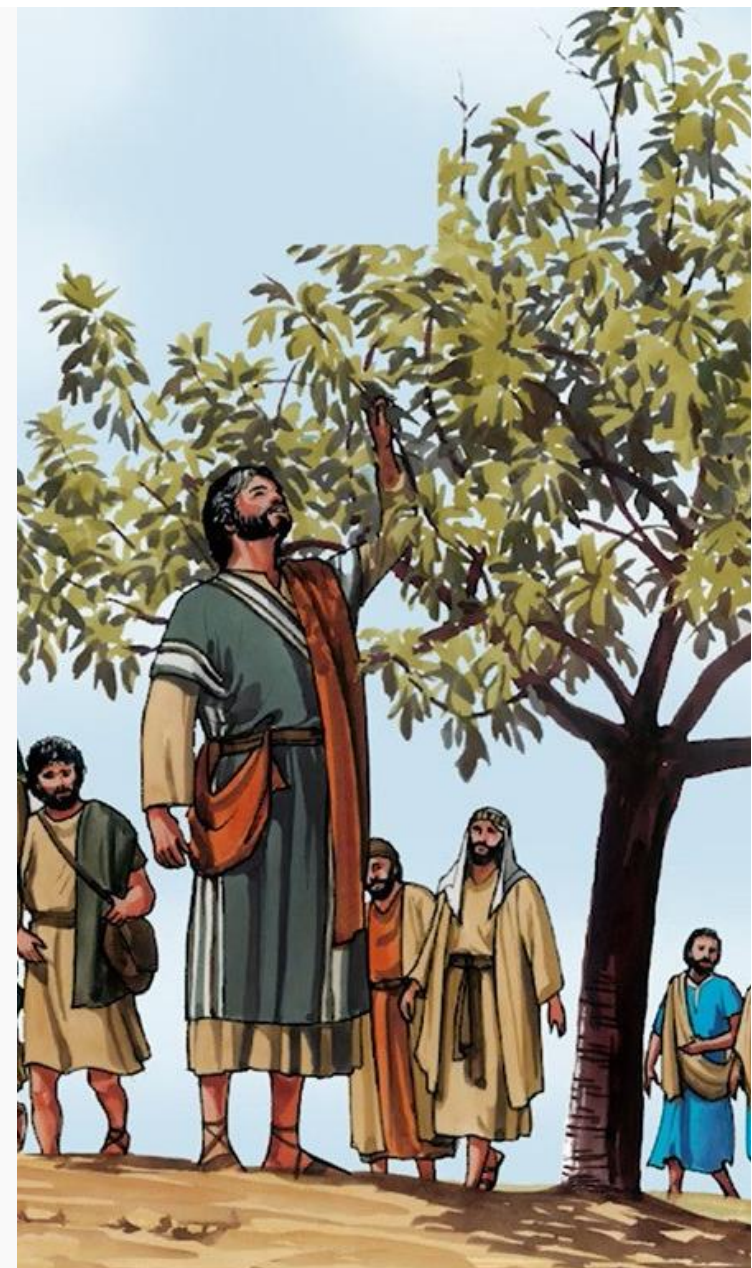
十字架も間近、近郊のベタニアから都に通っていたイエス。

空腹を覚えて近づいた、いちじくには実がなっていなかった。

“いちじくのなる季節ではなかった”

→まだイスラエルの救いの時ではない

「今後いつまでも、だれもおまえの実を食べることがないように」



呪われたいちじく

マルコ11章

■ 腐敗の温床となっていた神殿で、イエスは
大暴れ、宮きよめをされた。

『わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣(エレ7:11)』にしてしまった。」

■ 帰り道、あのいちじくは枯れていた。イエスは、弟子たちに告げられた。



枯れたいちじくを前に、主イエスが告げたこと

「神を信じなさい。

まことに、あなたがたに言います。この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言い、心の中で疑わずに、自分の言ったとおりにになると信じる者には、そのとおりになります。

ですから、あなたがたに言います。あなたがたが祈り求めるものは何でも、すでに得たと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。

また、祈るために立ち上がる時、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してくださいます。」

確信に満ちた祈りの根拠は、主の約束

- ① “山も海に入る”…“山(悪の権威)も海(滅び)にいたる”
→ 最終的滅びは主がもたらすと約束
- ② “得たと信じて祈る”…神の国について、主の約束は完全に成就。
主の目にはすでに実現 → 信頼して祈る
- ③ “まず赦しなさい”…赦しは、信じて救われた者の特権。
「私は、神の怒りから救われた。神が正しく裁かれる」
→ 赦しは、信仰ゆえに与えられ、行使できる信者の特権

★ エレミヤの預言を完成された、主イエスに信頼しよう ★

■ 私を苦しめる最たるものは、私自身の内にある。

罪も悪も外から来るのではなく、私の内にある罪から生じる。

■ 自己中心という罪が私を呪縛する。私の正義が私を縛る。

赦しという、信仰者最大の特権を行使しよう。

憎悪の呪縛に苦しむ人に、救いと解放の福音を告げよう。

■ 涙の中、エレミヤが待ち望んだメシアは、すでに来られた

すべての罪を赦される、主イエスの福音を高く掲げよう!!

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

わたし つみ ゆる わたし えいえん みくに たみ
私の罪は赦されました。私は、永遠の御国の民とされました。

みことば みたま わたし かくしん あた
御言葉と御霊によって、私に確信を与えてください。

わたし すく とっけん ゆる せんげん
私は、救いの特権をもって、赦しを宣言します。

ふくいん つ し みたま たす うち つか
この福音を告げ知らせます。御霊の助けの内に遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」